



バレエ「ドン・キホーテ」の第一幕に登場する町娘・キトリを姉の明子さんが演じたときに持っていた扇子。スペインの町が舞台とあって、衣装やメイクも情熱的。そしてこの見事な踊り。一体どんなハネをしているんだか。



最初からトゥシューズが着用できるわけではない。先陣まで柔らかなバレエシューズで慣らした後、爪先で立てるほど筋肉をつけてからようやくトゥシューズが解禁される。一人前のバレリーナになった証といえるだろう。



衣装の一つひとつに対して髪飾りも使い分けている。舞台の上で高貴な役を演じるときはティアラ、町娘を演じるときは花の髪飾り。ステージ上で誰よりも目立つため、オーダーメイドで投資する人も多くいるという。

京 KYOTIAN I.D.
京のおきばりさん

舞踊家

白華 bjacca

びゃっか

【プロフィール】

大阪市出身。5歳からクラシックバレエを始めた姉の岡田明子（'80年生まれ）と3歳から始めた妹の周子（'82年生まれ）からなるバレリーナ・ユニット。近寄りたがいイメージのバレエにもっと親しんでもらおうと、イベントやフリーペーパーの発行、ブログの開設などを予定している。http://www.bjacca.net/

バレエ、その素晴らしき世界への 水先案内人として踊り出した姉妹

クラシックバレエといえは、山岸源子先生の「アラバスク」や有吉京子先生の「SWAN」に洗礼を受けた女性も多いだろう。「孤高にしてストイック」「一流を目指すためなら相手を蹴落とすことも厭わない」「そもそも瘦せてなければ笑止千万」。こういったイメージから、燦然と輝く憧れだったにもかかわらず、涙を吞んで諦めた人たちが少なくない。そこでバレエにつきまとう数居の高さを払拭するため誕生したのが「白華（びゃっか）」。姉の明子さんと妹の周子（ひろこ）さんからなるバレリーナ・ユニットだ。

「幼稚園の頃でした。身体検査で「背骨が曲がってるよ」って言われて。水泳と迷ったんですけど、姿勢がよくなれば…と習い始めたのがきっかけで」と明子さん。そのとき姉にくっついて周子さん、めどなき姉に憧れた。梅田の雑踏を踊りながら歩いていた「というほどバレエが好きだった彼女たちだが、上手くなるにつれイジメにあう。明らかに自分あてとわかる露骨なヒソヒソ話。階段を歩くときは気を付けろとまで言われた。後々、漫画に描かれる手口のほとんどは体験したといっている。

「このままでは娘たちまで意地悪な子になってしまう。優しい子に育ってほしいのに」という母の願いから、一旦はバレエを辞めたほどである。

しかし、1カ月も経たないうちに母の反対を押し切って、仁川の「江川バレエスクール」へと通いだす。そこで師事した江川のぶ子先生は、関西バレエ界をリードする重鎮。スパルタ式の徹底指導だけれどなく、内面の美しさこそバレリーナにとって、人間にとって大事な事だという教えのもと、二人はメキメキ頭角を現し、舞台の主役や数々のコンクールで入賞を果たす（あ、このあたりは「ガラスの仮面」をイメージしてもらえばよい）。

確かにバレエは芸術であり、本気で挑めば高い壁にぶち当たる。「でも、『バレリーナみたいになんてキラキラな姿勢になりたいな』とか『ダイエットにききそう』とか、きっかけは何でもいい。とにかくバレエの魅力に触れてほしい。そのお手伝いがしたいんです」。

姉の明子さんは現在、大人でも始められるバレエレッスンを開講している。また、この秋にはユニットとして大きなイベントも控えている。

舞台は京都。コンクールの前にはお参りを欠かさなかった八坂神社がある街で、二人は活動をスタートする。

そしてゆくゆくは、バレエスクールを併設した複合カフェをオープンするの夢だ。カフェという広い間口から、バレエの未来は拓かれていく。

Information

『三条あかり景色』

10/6（土）～10/8（祝）
三条通りにて
映像とバレエのコラボレーションを開催。
http://www.akarikesiki.com/